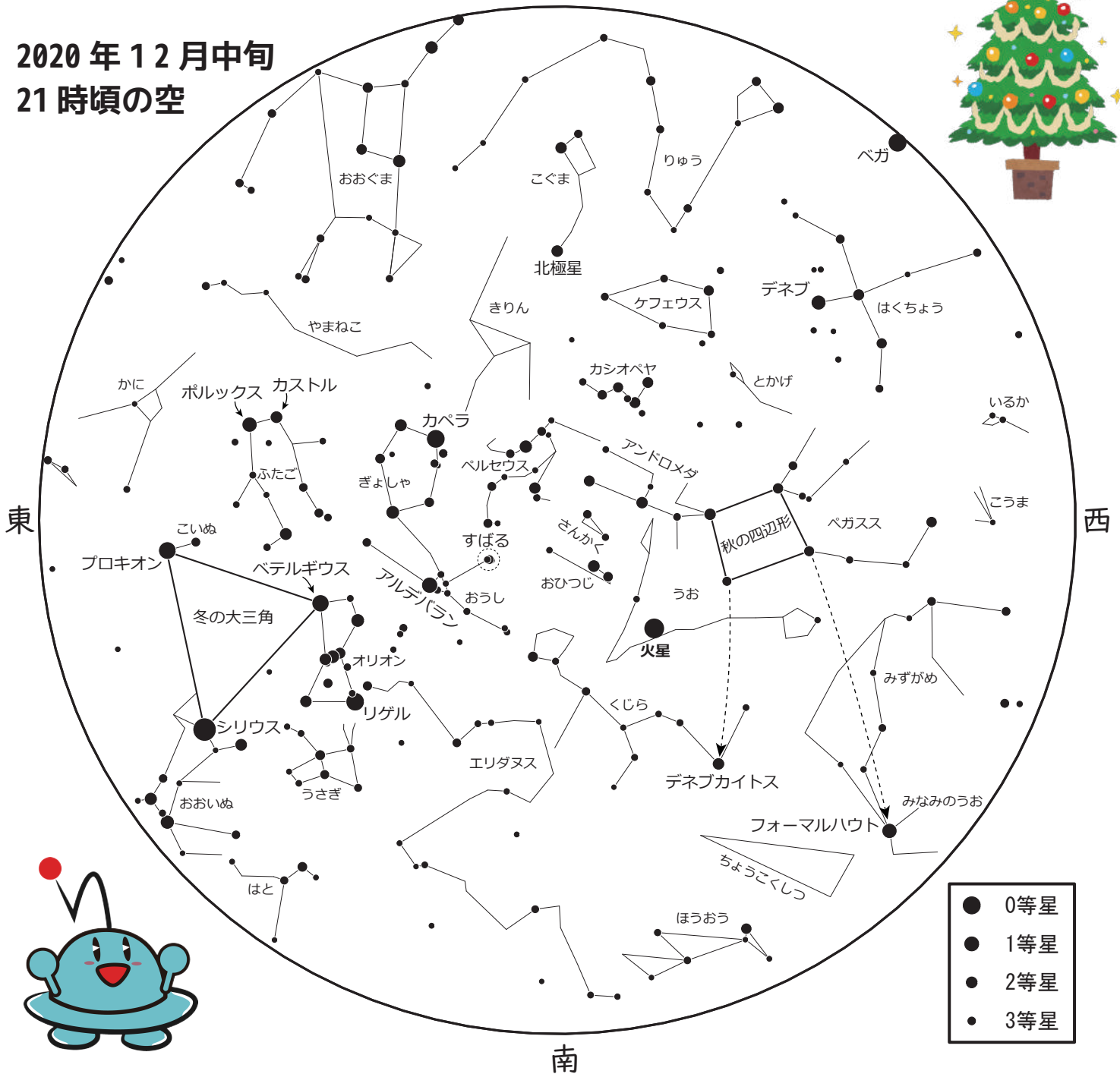


# 阿南市科学センター

# 12月の星空案内

北

2020年12月中旬  
21時頃の空



南

12月になり寒さが厳しくなりましたが、冬の星座には明るい星が多く、「宝石を散りばめたような星空」とも言われ、その美しさは寒さを忘れてしまうほどです。そんな冬の星座の中でも特に目を引くのはオリオン座。1等星よりも明るいベテルギウスとリゲルに加え、2等星を5つも従えたとてもゴージャスな星座です。オリオン座の西には、おうし座の右目で輝くオレンジ色の1等星アルデバランがあり、さらに西へ行くと『すばる』（プレアデス星団 M45）が見つかります。すばるは清少納言の枕草子にも登場する有名な天体で、暗い空で肉眼で見ると、目の良い人なら6~7個の星の集まりに見えます。視力に自信のある人は、すばるの星の数を数えてみてください。一般的な5~10倍の双眼鏡で見ると、さらにたくさんの星が見えてきます。ぜひ、観察してみましょう。

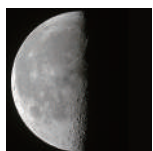
天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

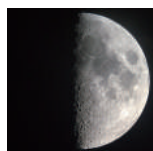
# 12月の月の満ち欠けと惑星について



下弦  
8日



新月  
15日



上弦  
22日



満月  
30日

## 12月の天体観望会で月が見える日時は？



12/19(土)・・・18時19時の回で観察可



12/26(土)・・・全ての回で観察可

水星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。【約-1.0等】

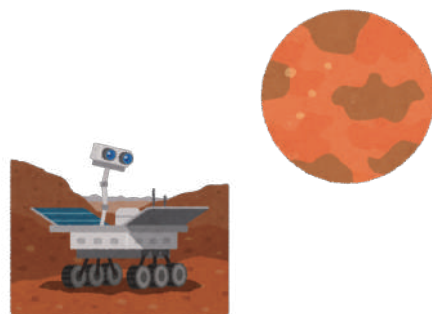
金星：日の出前の南東の低空に見える（明けの明星）。【約-4.0等】

火星：宵の口に南東～南の空で見える。【約-0.7等】

木星：宵の口に南西の低空で見える。【約-2.0等】

土星：宵の口に南西の低空で見える。【約0.6等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさとなる。



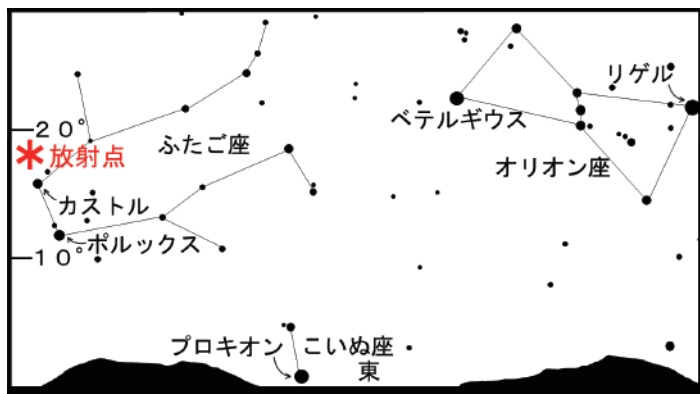
## 注目の天文現象など

### 【ふたご座流星群】

三大流星群の一つであるふたご座流星群。2020年は12月14日（月）の午前10時頃にピークを迎えると予想されています。流星は深夜から明け方にかけて出現数が増大する傾向にあるため、最も観察に適した時間帯は13日の23時以降となります。この夜は一晚中月明りがなく、良好な条件で観察できます。

流星群は放射点を中心に放射状に飛びますが、空全体を流れるため、どの方向を向いて観察しても構いません。多くの流星を見るには、なるべく空が開けた場所で空の広い範囲を見るようにしましょう。また、この時期の夜間は非常に寒いため、万全の防寒対策を行いましょう。

当館では、12月13日（日）の19時～21時に特別観望会「ふたご座流星群を観察しよう」（予約制・先着順）を行います。流星群の観察だけでなく、スタッフによる星座解説や望遠鏡での天体観察も行います。ぜひ、お越しください。



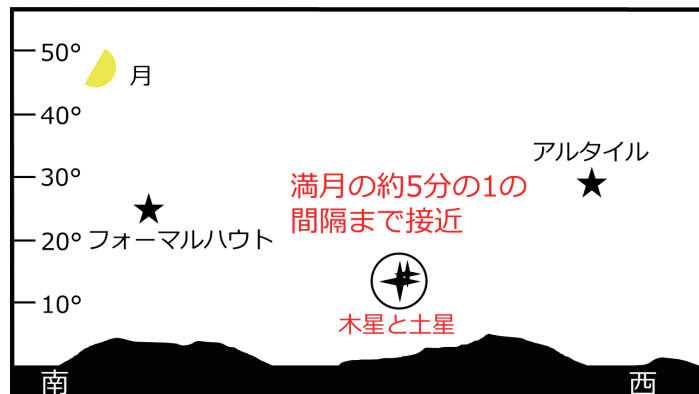
ふたご座流星群放射点の位置  
(2020年12月13日20時頃 阿南市)

### 【木星と土星が超大接近】

12月21日（月）の夕方、南西の低空で約-2等の木星と約0.6等の土星が見かけ上くっつきそうなくらい超大接近します。2つの惑星の間隔は満月（約30'）の約5分の1（約6'）で、これほど接近するのは約400年ぶりの超レア現象です。この機会に2つの星に分離して見えるのか、1つの星に見えるのか確認してみましょう。

2つの惑星は19時過ぎに沈んでしまうため、観察可能な時間帯は18時前後からの1時間程度です。少しでも長く観察したい場合は、南西の空を地平線や水平線まで見渡せる場所で観察してみましょう。

なお、21日に見れなかった場合、翌22日（火）も2つの惑星の間隔は大きく変わらないため（約7'）、2日続けて観察することができます。これらの機会を逃すと、次に木星と土星が約6'まで接近するのは、2080年となります。



木星と土星の超大接近  
(2020年12月21日18時頃 阿南市)